

ご挨拶

「障害児基礎教育研究会」は、創始者である故水口俊（みずぐちふかし）が、障害児教育のあり方を明らかにすることを目的に平成元年に設立したものです。

①特別支援教育に携わる教師や作業療法士、臨床発達心理士、医療機関での療育担当者を含む周辺職種や保護者など、障害のある子どもにかかわる多彩な人々が参加しています。

②「見る、見たものに手を伸ばす」など、初期の運動操作から概念形成・記号操作に至るまでの過程を独自の教材教具を開発し、教育実践に基づいて解明しようとしています。

③子どもと支援者である大人が、ともに学び合う存在として、人間関係を深めていくことを大切にしています。

これらを特色として、定例の個別指導や教材製作、研究協議会を行っています。この会には、会員にかかわらず、どなたでも無料で参加できます。

平成19年、水口俊は志半ばに逝去しましたが、その心は会員が受け継ぎ、それぞれの実践の場で、研究を深めています。教材教具を作ってみたい方、研究協議会に参加したい方は、ホームページ「お問い合わせ」より幹事にご相談ください。

障害児基礎教育研究会 代表 吉瀬正則

<役員>

- | | |
|------------------|-------|
| ・全国療育相談センター | 立松 英子 |
| ・東京都立特別支援学校外部専門員 | 根本 文雄 |
| ・東京都立青山特別支援学校 | 長沼 潤子 |
| ・東京都立墨田特別支援学校 | 金子記美恵 |
| ・神奈川県立平塚ろう学校 | 加部 清子 |
| ・琉球大学大学院教育学研究科 | 比嘉 展寿 |
| <長野大会実行委員長> | |
| ・信州大学教育学部 | 楠見 友輔 |

□会場

信州大学 長野キャンパス
図書館講義室（図書館2階）



（大学公式Facebookより転載）

〒380-8544 長野県長野市西長野6の口

JR長野駅善光寺口からバスで15分／徒歩で25分、自家用車でお越しの方は学内駐車場に駐車可能（無料）。
詳細は、本研究会ホームページをご覧ください。

参加登録

*お申し込みはホームページ
(<https://kisoedu.jp>) よりお願いします。

【参加費】2000円 学生/保護者:1000円

※参加登録後にお振り込みください。

現地支払いはご遠慮ください。

【振込先】三井住友銀行高幡不動支店

店番号261 普通口座 1327611

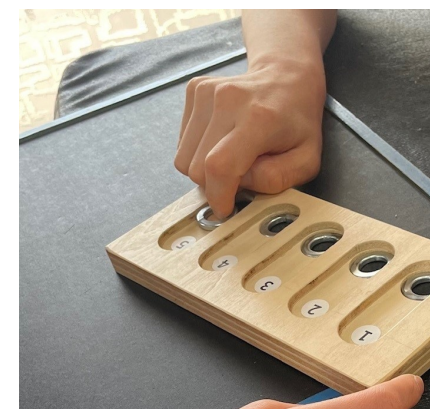
障害児基礎教育研究会

締切：10月20日厳守

第32回 障害児基礎教育研究会

教材 工夫 展

対話の道具としての教材教具



後援 全国特別支援教育推進連盟

URL : <https://kisoedu.jp>



教材工夫展について

1994年8月に第1回を開催して以来、教材工夫展は、年に1回、創始者及び会員による創作教材を通して、コミュニケーションのための創意工夫の歴史を公開してまいりました。コロナ禍の2021年と2022年はオンラインでの開催を余儀なくされましたが、これまで、国立オリンピック記念青少年総合センター、東洋大学、東京福祉大学、沖縄国際大学、琉球大学等の会場をお借りして、全国から集った保護者や専門家と、教育の創造の喜びを分かち合うことができました。

このたびは信州大学での開催が叶い、感謝の念に堪えません。楠見実行委員長はじめ無償でご協力くださった長野県の特別支援学校の先生方に心より感謝申し上げます。主催者一同、美しい長野の空気を吸いながら、皆様と出会いへの期待感にワクワクしています。

自然界の物には全て色や形、位置、順序、方向があります。大人には当たり前のことかもしれませんが、これらの学習過程にいる子どもにとっては、丁寧に作られ、工夫された教材教具は「わかる、できる」実感との架け橋です。本研究会は常に、教える側と教えられる側が時にその立場を逆転しつつ、滞りや躓きを乗り越えて、互いの関係を深めていくことを目指してきました。年齢や障害の種類・程度を問わない学びの喜びについて、皆様と語り合うことができたら幸いです。

(役員：立松英子)



第32回 障害児基礎教育研究会

教材工夫展



□日 時 2026年8月23日(日) 10:00-16:00

□場 所 信州大学 長野キャンパス
図書館講義室

□テーマ 対話の道具としての教材教具

□内容 ・創作教材の展示・製作相談・活用相談
・実践発表・講演

□ご挨拶 障害児基礎教育研究会 教材工夫展
長野大会実行委員長 楠見 友輔(信州大学)

<午前>

自由観覧 ・教材教具を自由にご観覧いただき、その場で
製作相談 制作相談や活用相談をお受けします。
活用相談 ・創始者の実践ビデオや、会員による動画コン
ビデオ視聴 テンツを公開します。

<午後>

実践発表 話し言葉が出る以前の子どもの学びを支える
沖縄県立宮古特別支援学校教諭 大野 晴菜

講 演 対話の道具としての教材教具
一操作を通して「相互障害状況」を解くー
全国療育相談センター
認定専門公認心理師 立松 英子

□研究紀要 会員及び参加者には無料で配布いたします。

□参加登録 会員/非会員にかかわらず、ホームページの
「参加登録リンク」よりご登録ください。

□参加費 2000円、学生・保護者は1000円
事前に銀行振込で承ります。



教材教具とは

- 1 手の操作を通じた、共通の言葉となる道具である。
- 2 大人の側からいえば、具体的で、予測のつく、発信と受信の道具である。子どもの側からいえば、わかりやすい受信に基づき学習の結果を発信する自己実現の道具である。
- 3 人間関係の成立のきっかけとなり、達成感を体得し、自己の可能性を発見し、そのよろこびを共感し、相互の信頼関係を深めていくふれあいの道具である。(水口 俊)

2005年7月 「教材教具とは」より要約、抜粋
(ホームページ「創始者紹介」に全文を掲載)



マッサージからコミュニケーションを始める
研究会創始者 故 水口 俊(写真左)

